



どこからでもらくらく接続できる 「クラウド型仮想デスクトップ」を構築

Tintriを基盤にして新サービス「Racdes」を立ち上げ、新しい収益の柱とすることを目指す

WBC

ワールドビジネスセンター
株式会社

クラウド型仮想デスクトップ「Racdes」の基盤に採用

1966年に大阪でデータエントリー専門業者として創業し、以来京都を本拠に50年にわたってITソリューションを提供してきたワールドビジネスセンター（以下、WBC）。医療や大学を中心にしたシステム運用管理、システム開発、パッケージ開発という3事業は、全国40の大学、35の医療機関との取引実績があり、WBCの現在の主力事業となっている。

システム運用管理では、医療情報システムや大学のネットワークに関する業務を同社の常駐社員がリアルタイムにサポートすることが特徴だ。システム開発やパッケージ開発では、診療録管理システム「M.reco」や、インシデントを収集してヒヤリハットの防止や情報共有を行うインシデントレポート管理システム「@iras」などを展開し、現在では約400病院に導入されている。

そんなWBCが2017年に新規ビジネスとして立ち上げたのがクラウド型のVDIサービス「Racdes（楽です）」だ。同社ソリューション事業本部ソリューション営業部サービス企画課の奥田健二氏はビジネス立ち上げの経緯についてこう話す。

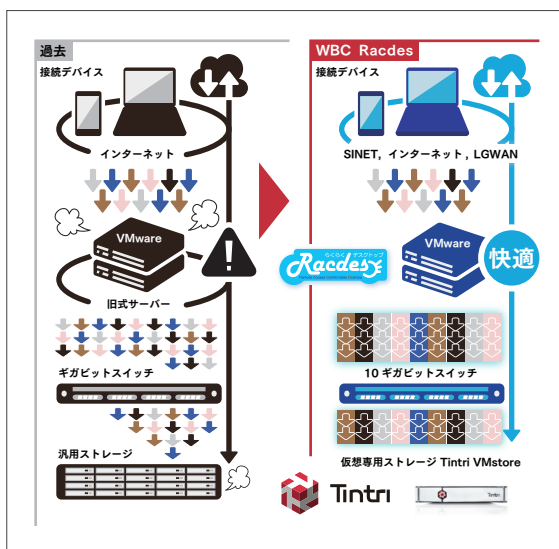
「既存のお客さまからシステム運用管理だけでなくデスクトップ環境も含めてまとめて管理してほしい、どうせならWBCでクラウド化して提供してくれないかという要望を受けました。われわれの強みのひとつは客先に常駐してニーズに合ったきめ細かいサービスを提供できること。そこで、使いやすいVDIサービスを企画したのです」（奥田氏）

顧客の不満を解消し、使いやすいVDIサービスを

情報を収集するなかでティントリの西日本支店とのつながりが生まれ、Tintri VMstoreをサービス提供基盤に利用することを決定した。採用のポイントのひとつは、顧客側にあったVDIへの不満を解消できたことだった。

「VDIに対する不満が大きく、なかにはトラウマのように感じている方もいました。不満の原因は、起動の遅さです。大学などでは授業が行われるたびにログオフとログインが繰り返され、ログオフストームとログインストームが同時に発生していました。I/Oパフォーマンス劣化の影響を受けやすかったのです」（奥田氏）

サービス開発ではまず1,200VMが稼働する既存環境にTintri VMstore T850を導入してさまざまな視点から検証を行った。検証した項目としては「設計」、「パフォーマンスチューニング」、「パフォーマンス低下時の原因特定」、「プロビジョニング」、「ディスクI/O」、「Windowsへのログイン時間」、「スワップ」などがある。



クラウド型VDIサービス「Racdes」では、適切なリソースが確保されるので容量不足や過剰スペックが排除され、さらに管理面での利点も大きい

業種

情報処理事業

事業概要

システムインテグレーションサービス／システム運用管理・運用の受託／コンピュータおよび周辺機器、消耗品などの販売

主な課題

- ・新たに仮想デスクトップサービスを立ち上げたい
- ・仮想マシンの増加でパフォーマンスが劣化する
- ・管理が複雑でエンジニアの負担が大きい

ビジネス上のメリット

- ・仮想マシン単位の管理や自動QoS、プロビジョニングの速さ、パフォーマンス劣化がなく安定した動作など、顧客のニーズを満たす機能が豊富に揃っているため、サービス展開がしやすかった
- ・仮想デスクトップを提供するためのクラウド基盤構築にさまざまなアドバンスを受けることができ、一緒に新しいサービスを立ち上げて成長させることができた

「簡単さ」はサービス成長に欠かせない重要な要素

検証を担当した稲澤孝規氏は「サービスに必要となるさまざまな項目について細かく検証を行いました。そこで実感したのは『Tintri VMstore はとても簡単だ』ということ。簡単なことを難しく説明することは難しいものです。我々が簡単に使えるので顧客にとってもきつと使いやすいサービスになると直感しました」と振り返る。

例えば、設計については、従来ストレージではエンジニアが要件を見てサイジングする必要があるが、Tintri VMstore はそもそも不要だ。VM 数に応じて製品を選ぶだけでいい。また、パフォーマンスチューニングも SSD と HDD のキャッシュヒット率の割合などエンジニアの経験が必要だが、これも Tintri VMstore は不要。パフォーマンスが低下したときも管理画面から簡単に原因を特定することができる。

ディスク I/O は約 10 倍に、起動時間は 2 分の 1 まで短縮

ベンチマーク結果も既存ストレージ環境を大きく上回るものだった。まず、プロビジョニングでは、100 台の VM をいちどに展開するとフリーズするなどして 1 時間ほどかかっていた。Tintri VMstore ではそれを 30 分で可能にし、500VM まで対応することができた。また、ディスク I/O については、4GB のテストデータを使って Read/Write 結果を複数計測したが、既存ストレージ環境と比較して約 10 倍の数字を叩き出した。

顧客のトラウマになっていた起動の遅さについても、既存環境での Windows ログオンが 1 分 5 秒かかっていたところ、Tintri VMstore ではデスクトップのチューニングなしに 31 秒と約 2 分の 1 にまで短縮した。スワップを発生させるテストでも、既存環境では目に見えて体感速度が落ち、ブラウザでの表示もままならなくなったのに対し、Tintri VMstore では体感速度にまったく変化はなかった。

「技術的な側面から見ると、VM 単位で管理して自動 QoS を行っている効果を確認できました。構造としてほかの VM の影響をほとんど受けないことはサービスを提供するうえで大きな優位点になると感じました」（稲澤氏）

稲澤氏とともに検証を実施した西口智氏は、「技術的な側面から見ると、VM 単位で管理して自動 QoS を行っている効果を確認できました。構造としてほかの VM の影響をほとんど受けないことはサービスを提供するうえで大きな優位点になると感じました」と話す。

パートナーとして共にビジネスを作っていく

現在 Racdes は、どこからでもらくらく接続できるクラウド型仮想デスクトップとして展開されている。海外を含む出張やテレワークや BYOD、アクティブ・ラーニングなど、働き方や学び方が大きく変わるなか、インフラ構築の手間なく、手軽に利用できるサービスとしてユーザーを増やしている。WBC にとっての新しいビジネスとして経営にも貢献し始めているところだ。

奥田氏は「ティントリにはサービスの立ち上げから相談に乗っていただきました。単なる製品ベンダーではなく一緒にビジネスを作ってきたパートナーのような存在となっています」と話す。

また、稲澤氏も「クラウドサービスでは SLA などサービス品質を向上させる視点が重要です。ニーズに応じてマルチクラウド環境でさまざまな機能を提供することも求められます。それらを満たす Tintri VMstore は、われわれのビジネスを成長させるためになくてはならない基盤です」と、今後を見据える。

仮想環境

- ・ VMware

適用システム概要

- ・ 仮想デスクトップサービス基盤

ソリューション

- ・ Tintri VMstore T850

主な用途

- ・ クラウド型仮想デスクトップ「Racdes」の提供基盤として採用

interviewee of this article



ワールドビジネスセンター株式会社
ソリューション事業本部
ソリューション営業部 部長
奥田 健二氏



ワールドビジネスセンター株式会社
ソリューション事業本部
ソリューション営業部
サービス企画課 主幹
稲澤 孝規氏



ワールドビジネスセンター株式会社
ソリューション事業本部
ソリューション営業部
サービス企画課 係長
西口 智氏

「VM単位で管理して
自動QoSを行っている効果を確認できました。
ほかのVMの影響をほとんど受けないことは
サービスを提供するうえで大きな優位点です」

ワールドビジネスセンター株式会社
ソリューション事業本部
ソリューション営業部
サービス企画課 係長
西口 智氏

※本カタログに用いられている商標は全て該当する会社が権利を保有しています。



info.japan@tintri.com | www.tintri.co.jp